

令和2年度版

# 観光の実態と志向

第39回 国民の観光に関する動向調査



公益社団法人 日本観光振興協会  
JAPAN TRAVEL AND TOURISM ASSOCIATION

## 1. 調査目的

国民の観光旅行の動向を明らかにし、諸施策を推進するための基礎資料の作成を目的とする。

## 2. 調査項目

- (1) 過去1年間(平成31年4月～令和2年3月：以下同様)の宿泊旅行の概要
- (2) 過去1年間の宿泊観光旅行
- (3) 今後の観光旅行の志向
- (4) その他

## 3. 調査の設計

- (1) 対象地域 全 国 (47都道府県)
- (2) 調査の対象 インターネットモニター  
\*母集団は、提携ネットモニター
- (3) 対象者条件 15歳以上の男女個人  
\*ただし、マスコミ・広告、新聞・放送業、市場調査の業種従事者は、調査関連業種として除外している。
- (4) 設計標本数 20,000
- (5) 標本抽出方法 都道府県別、性年代別人口構成比に準拠して割付(平成27年度国勢調査結果を使用)
- (6) 調査方法 インターネット調査
- (7) 調査時期 令和2年9月25日～10月1日

注1：第9回昭和55年調査までは満18歳以上の男女が調査の対象であったが、第10回昭和57年調査から満15歳以上と対象年齢を3歳下げた。第21回平成14年度調査からは対象者を全国民とした。また、第31回平成24年度調査からは、15歳以上のインターネットモニターを対象とした。

注2：第18回平成11年度調査までは対象時期が9月～8月であったが、第19回平成12年度調査からは4月～3月としている。なお、第31回平成24年度調査からインターネット調査とした。

## 4. 調査担当

株式会社サーベイリサーチセンター

## 5. 回収結果

有効回収数 20,000

## 6. 分類定義

地 域	北海道	北海道
	東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
	関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
	甲信越	新潟県、山梨県、長野県
	中部	富山県、石川県、福井県、岐阜県、静岡県、愛知県
	関西	三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
	中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
	四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
	九州	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
都 市 規 模	大都市	東京23区+政令指定都市
	中都市	人口10万人以上の都市
	小都市	人口10万人未満の都市
	町村	郡部・町村

## 7. 調査対象の特性

		(人数)	(%)
全 体		20,000	100.0
地 域	北 海 道	868	4.3
	東 北	1,408	7.0
	関 東	6,853	34.3
	甲 信 越	816	4.1
	中 部	2,541	12.7
	関 西	3,540	17.7
	中 国	1,149	5.7
	四 国	594	3.0
	九 州	2,231	11.2
都 市 規 模	大 都 市	6,519	32.6
	中 都 市	8,817	44.1
	小 都 市	3,498	17.5
	町 村	1,166	5.8

## 7. 調査対象の特性(つづき)

全 体		(人数)	(%)
性別	男 性	9,932	49.7
	女 性	10,068	50.3
年 齢	15 ～ 17 歳	517	2.6
	18 ～ 19 歳	685	3.4
	20 ～ 24 歳	1,166	5.8
	25 ～ 29 歳	1,251	6.3
	30 ～ 34 歳	1,440	7.2
	35 ～ 39 歳	1,655	8.3
	40 ～ 49 歳	3,682	18.4
	50 ～ 59 歳	3,106	15.5
	60 ～ 69 歳	3,666	18.3
70 歳 以 上	2,832	14.2	
同居家族の人数	1 人 (あなたのみ)	3,622	18.1
	2 人	6,523	32.6
	3 人	4,873	24.4
	4 人	3,403	17.0
	5 人	1,093	5.5
	6 人 以 上	486	2.4
同居家族の形態	単 身 世 帯	3,622	18.1
	夫 婦 だ け の 世 帯	4,995	25.0
	夫 婦 と 親 の 世 帯	1,439	7.2
	夫 婦 と 子 ど も の 世 帯	7,296	36.5
	親 と 夫 婦 と 子 ど も の 世 帯	1,165	5.8
そ の 他	1,483	7.4	
世 帯 所 得	200 万 円 未 満	2,206	11.0
	400 万 円 未 満	4,351	21.8
	600 万 円 未 満	3,694	18.5
	800 万 円 未 満	2,412	12.1
	1000 万 円 未 満	1,467	7.3
	1500 万 円 未 満	1,144	5.7
	2000 万 円 未 満	213	1.1
	2000 万 円 以 上	153	0.8
	わからない・答えたくない	4,360	21.8

全 体		(人数)	(%)
未 既 婚	未 婚	7,481	37.4
	既 婚	10,809	54.0
	離 別 ・ 死 別	1,710	8.6
免 許 保 有	持 っ て い る	15,630	78.2
	持 っ て い な い	4,370	21.9
職 業	農 林 漁 業	140	0.7
	自 営 の 商 工 業	907	4.5
	自 由 業	577	2.9
	管 理 職	925	4.6
	事 務 ・ 技 術 職	4,397	22.0
	労 務 ・ 技 能 職	2,683	13.4
	主 婦 ・ 主 夫	4,839	24.2
	学 生	1,550	7.8
	無 職	3,750	18.8
	そ の 他	232	1.2

### < 「自営の商工業」「管理職」「事務・技術職」「労務・技能職」について >

全 体		(人数)	(%)
勤 務 先 の 休 日 数	8 日 以 上 (完 全 週 休 2 日 制)	7,854	67.0
	5 日 ～ 7 日 (変 則 2 日 制)	2,570	21.9
	4 日 以 下 (変 則 1 日 制)	939	8.0
	そ の 他	363	3.1
	週 休 曜 日	決 ま っ て い る	7,980
	決 ま っ て い な い	3,746	31.9
有 給 休 暇 取 得 日 数	5 日 以 下	2,101	17.9
	6 ～ 10 日	2,532	21.6
	11 ～ 15 日	1,332	11.4
	16 日 以 上	1,222	10.4
	有 給 休 暇 は と ら な か っ た	1,192	10.2
	有 給 休 暇 は な い	3,347	28.5

### < 「就業形態」について >

全 体		(人数)	(%)
就 業 形 態	正 規 の 職 員 ・ 従 業 員	6,629	33.1
	パ ー ト ・ ア ル バ イ ト	3,150	15.8
	労 働 者 派 遣 事 務 所 の 派 遣 社 員	309	1.5
	契 約 社 員 ・ 嘱 託	801	4.0
	そ の 他	837	4.2
	無 職 (定 年 退 職 含 む)	8,274	41.4

表 1. 過去 1 年間の実態 — 宿泊観光旅行

項 目	宿泊観光旅行の実態	
1) 参 加 率	47.4%	
2) 参加回数		
全体平均	1.32回	
参加者平均	2.78回	
3) 実 施 月	8月が 13.3%でピーク	
4) 目 的 地	県 内	11.2%
	県 外	88.0%
5) 出 発 した 日	平 日	36.3%
	土・日・祝	34.3%
6) 行 動 (複数回答)	①自然の風景をみる	52.1%
	②温泉浴	35.8%
	③名所・旧跡をみる	34.1%
7) 主 な 行 動	①温泉浴	19.1%
	②自然の風景をみる	15.3%
	③名所・旧跡をみる	13.1%
8) 同 行 者	①家族	55.2%
	②友人・知人	20.6%
	③自分ひとり	16.5%
9) 同 行 人 数	①2～3人	58.0%
	②1人	16.9%
	②4～5人	
10) 利 用 交 通 機 関 (複数回答)	①自家用車	44.7%
	②JR鉄道	39.1%
	③私鉄	16.6%
	④飛行機	16.0%
	⑤路線バス	12.7%
11) 宿 泊 施 設	①ホテル	65.7%
	②旅館	22.1%
12) 宿 泊 数	平均 1.69泊	
13) 旅 行 費 用		
総 費 用	54,300円	
宿 泊 費	23,080円 注) 旅行会社の募集团体	
交 通 費	15,330円 及び「職場、学校」	
土 産 の 費 用	6,490円 「地域宗教」の団体	
観 光 行 動 費	12,040円 を除く	

表 2. 過去 1 年間の宿泊旅行の実態

旅行の種類	参加率	参加回数 (全体平均)	参加回数 (参加者平均)
全体	56.8%	2.44回	4.30回
観光旅行	47.4%	1.32回	2.78回
出張などの商用	8.6%	0.48回	5.58回
帰省などの私用	14.9%	0.44回	2.97回
兼観光旅行	7.6%	0.20回	2.67回

表 3. 今後 1 年間の宿泊観光旅行の希望

1) 参加希望率	61.1%	
2) 参加希望回数	2.26回	
3) 希望季節	秋 31.1%、	春 19.0%
4) 希望宿泊数	2.10泊	
5) 希望費用	総費用	45,670円
	1泊あたり宿泊費	11,280円
6) 希望する旅行の種類	①温泉を楽しむ	46.8%
	②食を楽しむ	27.2%
	③季節の花々を楽しむ	23.9%
	④寺社仏閣を楽しむ	23.4%
	⑤リゾートライフを楽しむ	20.9%

# 令和2年度調査結果のポイント

本調査は、全国の20,000人を対象に、令和元年度（平成31年4月～令和2年3月までの1年間）の国内旅行の実態と、今後の希望について調査を行ったものである。この調査は、昭和39年から継続して実施しており、国民の観光動向を50年以上のロングスパンで比較検証できる調査である。ただし、平成24年度調査（23年度の宿泊観光旅行実態を調査）より、訪問留置調査から現在のインターネット調査へと調査手法を変更したため、平成22年度以前と平成23年度以降のデータとでは単純に比較はできない。

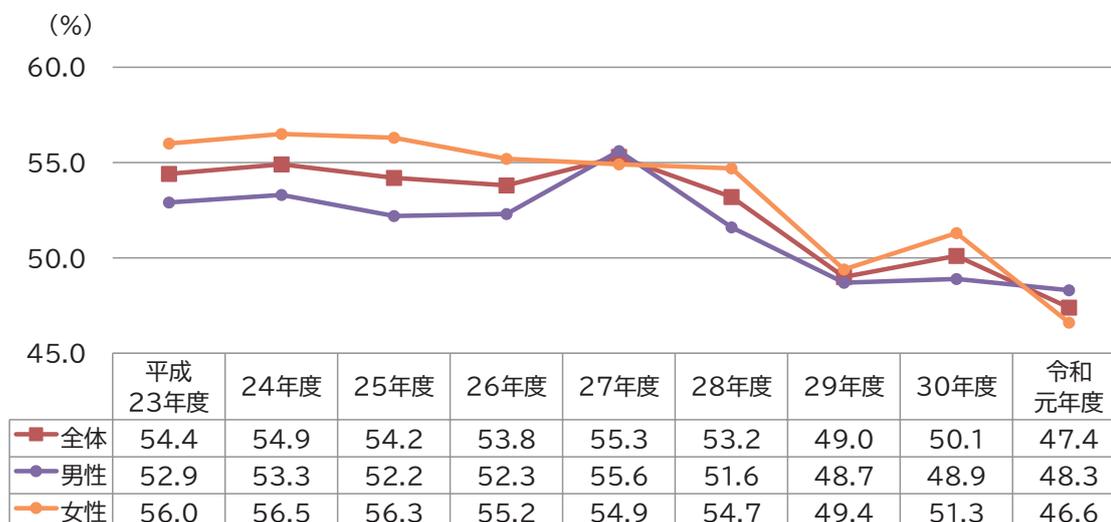
令和元年度の宿泊観光旅行は、昨年度の旅行実態よりも参加率が減少しており、特に3月の参加率の落ち込みが大きい。また、参加希望についても大きく減少しており、実績、希望ともに年度末からの新型コロナウイルス感染拡大の影響が現れたものと考えられる。

## Data 1 宿泊観光旅行の参加率

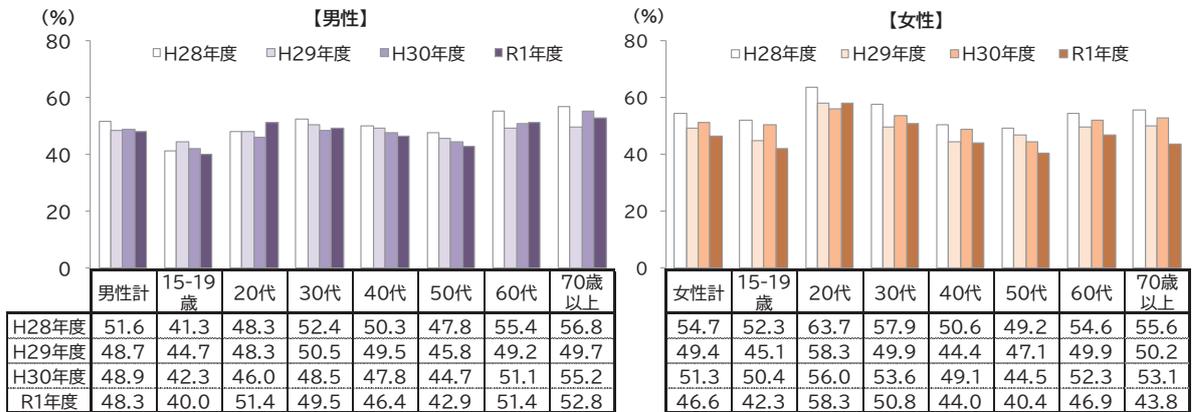
令和元年度における宿泊観光旅行への参加率は47.4%となり、昨年度に比べ2.7ポイントの減少となっている。宿泊観光旅行の参加率は、昨年度はやや増加したものの、今年度は減少に転じており、長期的にみると漸減傾向にある。性別にみると、男性の参加率は昨年度に比べ0.6ポイント減の48.3%、女性の参加率は昨年度に比べ4.7ポイント減の46.6%であった。男性に比べて、女性の参加率の減少幅が大きくなっており、平成27年度以来初めて、女性の参加率が男性の参加率を下回る結果となった。

性・年代別にみると、男性では20代・30代・60代の参加率が増加しているが、10代と40代・50代は経年で減少傾向が見られる。女性では唯一20代で増加しているものの、他すべての年代で昨年度より減少しており、特に10代と70歳以上で減少幅が大きい。

図表2-1：宿泊観光旅行参加率の推移(全体／性別)



図表2-2: 宿泊観光旅行参加率の推移(性・年代別)

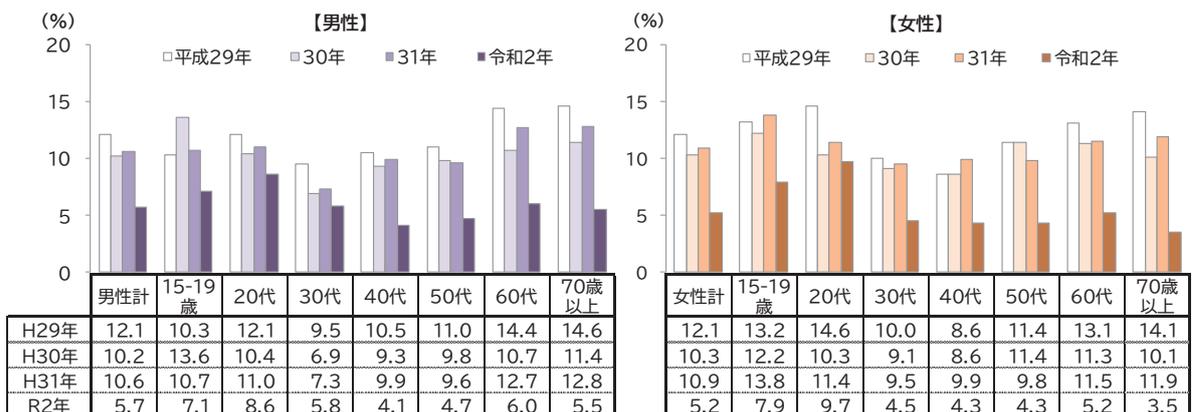


新型コロナウイルス感染拡大の影響を明らかにするため、過去4年間の1～3月の宿泊観光旅行への参加率を比較する。令和2年1、2月の参加率は例年並みであるものの、国内で新型コロナウイルス感染拡大が深刻化し始めた3月は、それまでと比べて半分近くにまで落ち込んでおり、新型コロナウイルス感染拡大の影響が顕著に現れている。性・年代別でも同様に、3月はすべての性・年代で大幅に減少している。

図表2-3: 1～3月の宿泊観光旅行参加率の推移



図表2-4: 3月の宿泊観光旅行参加率の推移(性・年代別)

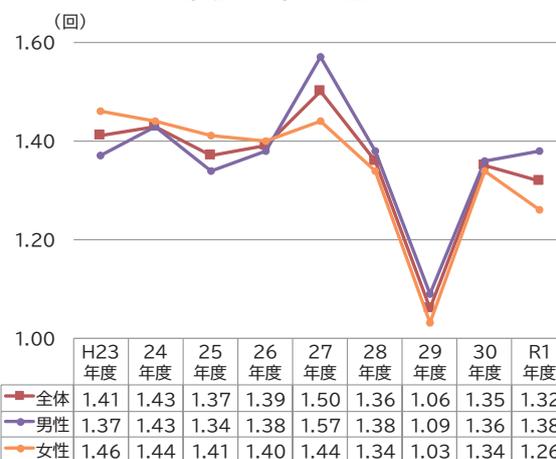


## Data 2 宿泊観光旅行の回数

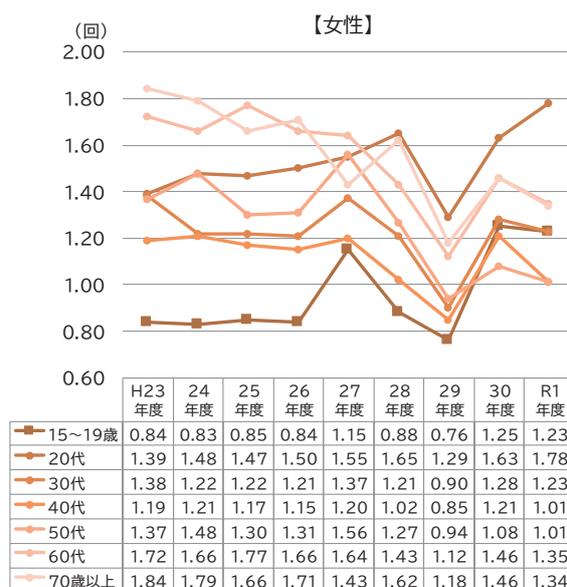
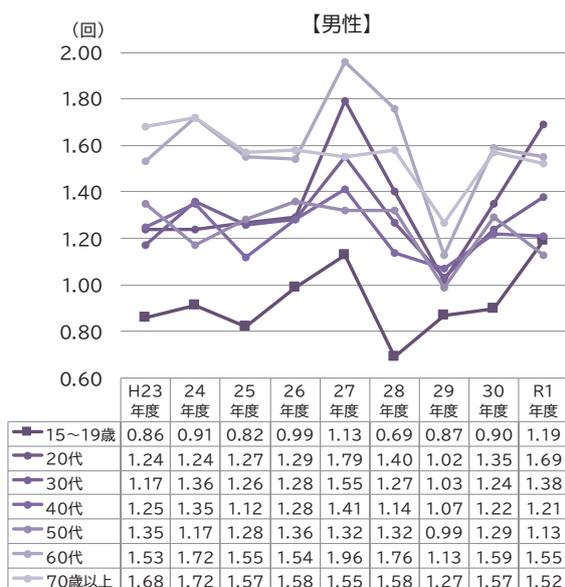
宿泊観光旅行への参加回数は全体で 1.32 回と昨年度に比べ僅かに減少している。男性は 0.02 回の増加、女性は 0.08 回の減少となっている。

性・年代別にみると、男性では 30 代以下の各層で昨年度から増加、40 代以上の各層では減少している。女性では、20 代が 1.78 回と最も多く、昨年度よりも増加しているが、その他の年代ではいずれも減少している。

図表2-5: 宿泊観光旅行への参加回数(全体平均)の推移(全体/性別)



図表2-6: 宿泊観光旅行への参加回数(全体平均)の推移(性・年代別)

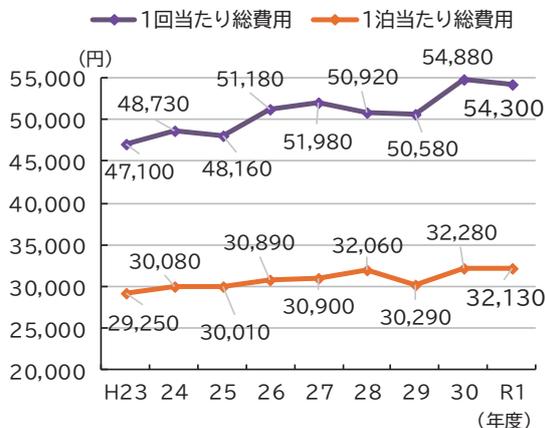


### Data 3 旅行費用

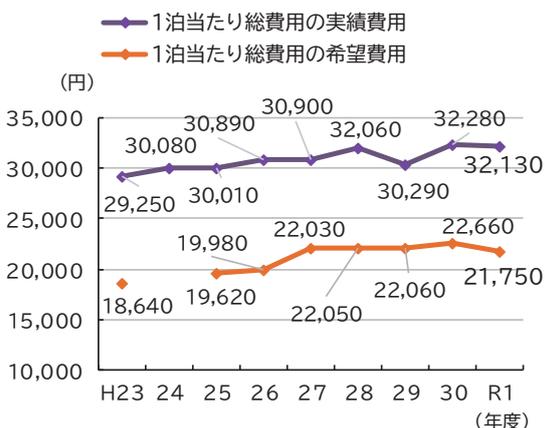
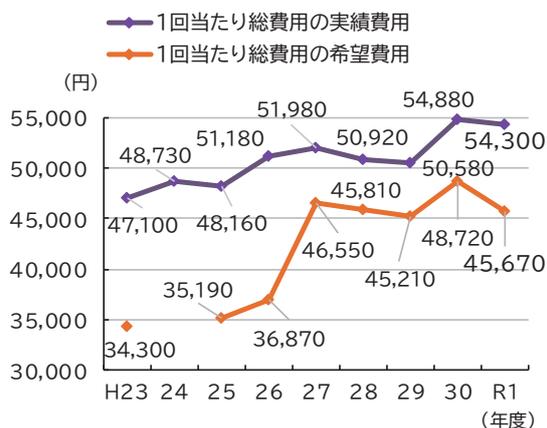
宿泊観光旅行における1回当たりの総費用は54,300円で昨年度から580円の減少となっている。1泊当たりの総費用は150円の減少である。

一方、希望費用では、1回当たりの総費用が45,670円と、昨年度から3,050円減少し、実績と希望の差が大きく開く結果となった。1泊当たりの総費用は21,750円と、昨年度から910円の減少である。

図表2-7: 宿泊観光旅行の総費用の推移 (1回当たり/1泊当たり)



図表2-8: 宿泊観光旅行の総費用の推移(1回当たり/1泊当たりの実績と希望)

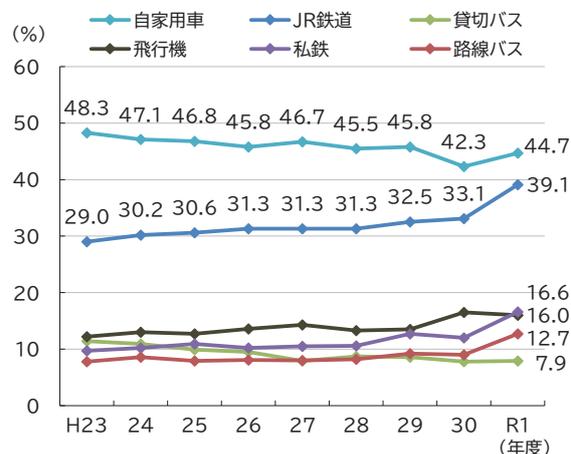


※平成25年度調査(平成24年度)の希望費用は、聴取方法を変更しているためデータの比較が難しく、掲載をしていない。

### Data 4 交通手段

宿泊観光旅行における利用交通手段は、「自家用車」が44.7%と最も高く、次いで「JR鉄道」が39.1%、「私鉄」が16.6%と続く。経年的変化でみると、「JR鉄道」、「私鉄」、「路線バス」の公共交通機関にそれぞれ増加が見られ、特に「JR鉄道」は6.0ポイント増となっている。また、経年で漸減傾向にあった「自家用車」が2.4ポイント増加している。

図表2-9: 宿泊観光旅行の利用交通手段の推移

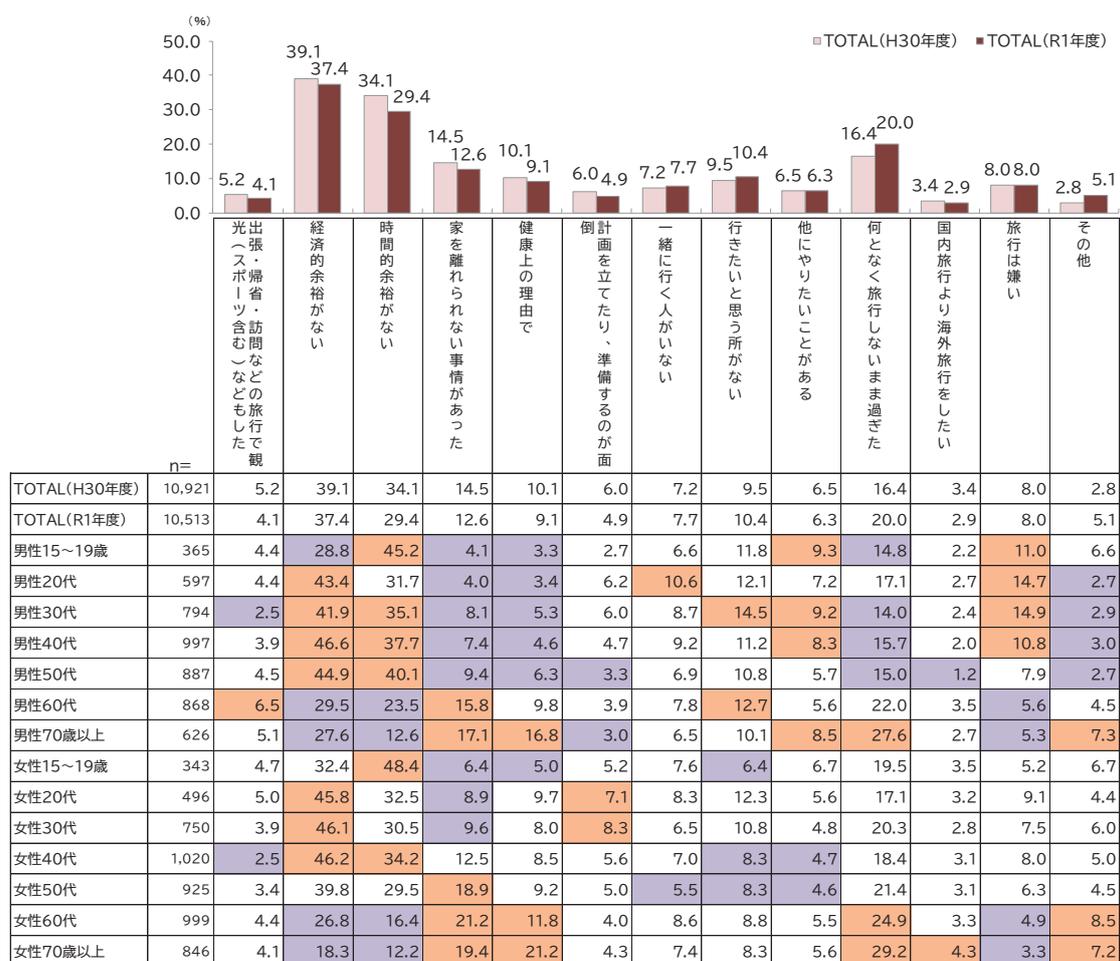


## Data 5 宿泊観光旅行をしなかった理由

性・年代別に宿泊観光旅行をしなかった理由をみると、男女ともに20代～50代は「経済的余裕がない」をあげる割合が高く、4割前後となっている。また、男性60代以上、女性50代以上では「家を離れられない事情があった」が目立ち、自身の体調や家族の介護といった各家庭での事情があったことが推測され、男女とも70歳以上では「健康上の理由で」の割合が高くなっている。また、男女とも60代以上で「何となく旅行しないまま過ぎた」の割合が高くなっている。

昨年度調査と比較すると、「経済的余裕がない」、「時間的余裕がない」、「家を離れられない事情があった」の回答率は減少している。一方、「何となく旅行しないまま過ぎた」の回答率が増加しており、「行きたいと思う所がない」は僅かながら増加している。旅行行動への制約を要因とする割合が減っている一方で、人々の生活において旅に出かける魅力も低下している可能性がある。

図表2-10: 宿泊観光旅行をしなかった理由の比較

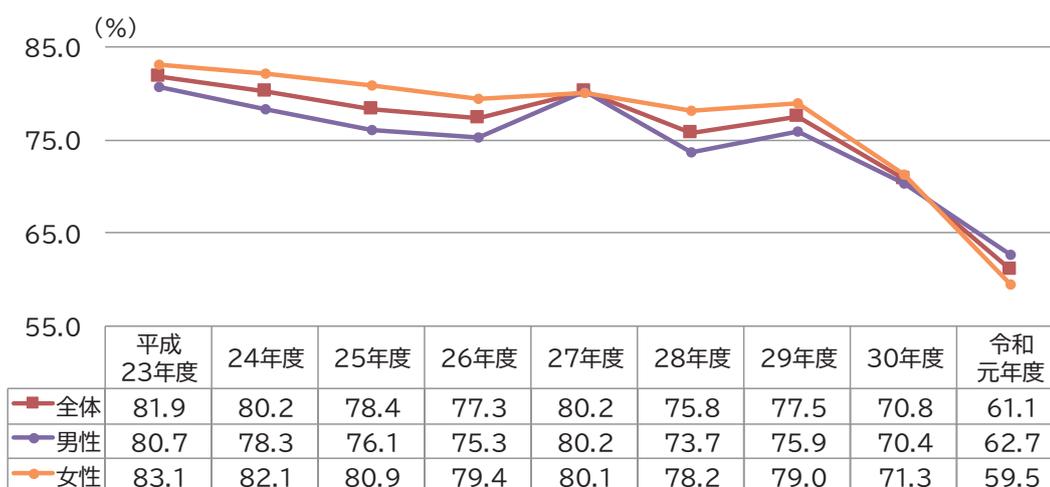


※ ■ TOTALよりも95%以上の水準で有意に高い ■ TOTALよりも95%以上の水準で有意に低い  
 ※ベース：宿泊観光旅行をしていない人

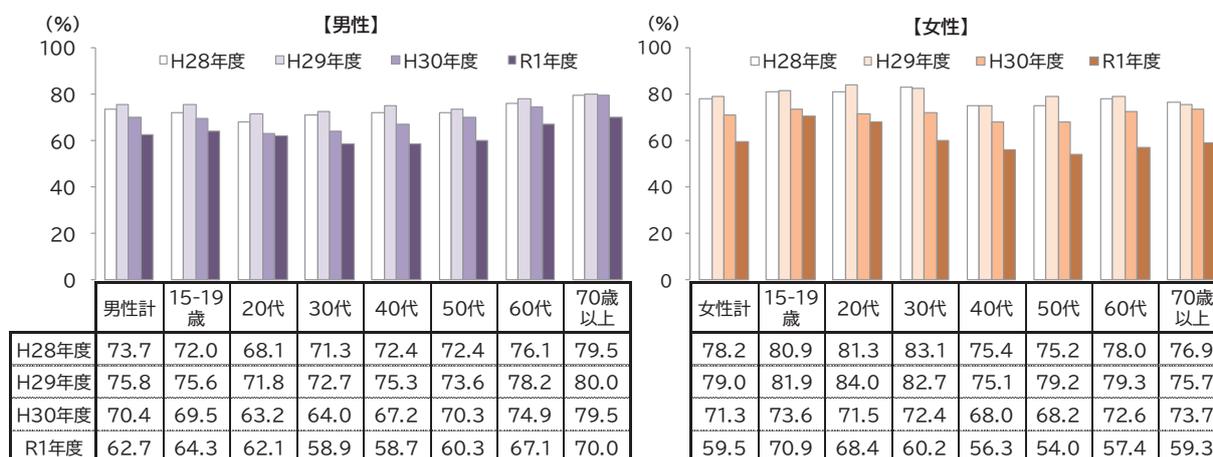
## Data 6 宿泊観光旅行への参加希望率

宿泊観光旅行への参加希望率は、昨年度に比べて9.7ポイントの大幅な減少となっている。特に女性の30代以上で昨年度より大きく減少しており、現下の新型コロナウイルス感染拡大の影響が現れていると推察される。

図表2-11: 宿泊観光旅行参加希望率の推移(全体/性別)



図表2-12: 宿泊観光旅行参加希望率の推移(性・年代別)





公益社団法人 **日本観光振興協会**  
JAPAN TRAVEL AND TOURISM ASSOCIATION